

日本草地学会新潟大会ライブ配信日程

ライブ配信日程は次の通りです。ライブ配信は Zoom ミーティングにて行います。
会議室へは新潟オンライン大会ホームページからご入室ください。

3月20日（土）

時間	ライブ配信	備考
9：30—10：00	開会式	
10：00—11：30	優秀若手発表賞発表（4題）	
11：40—13：00	優秀若手発表賞選考委員会	選考委員会 限定
14：00—17：00	学会賞・優秀若手発表賞授与式、 受賞講演	

3月21日（日）

時間	ライブ配信	備考
10：00—12：30	和文誌・英文誌合同編集委員会	編集委員会 限定
14：00—17：30	企画集会 草地管理の効率化に向けてドローンを使 っちゃいなよ！	

3月22日（月）

時間	ライブ配信	備考
10：00—12：30	小集会1（若手の会） トウモロコシ研究の最前線 育種・栽培 から給与・乳生産まで	
14：00—16：30	小集会2（公開企画委員会） 草地学会の活性化に向けて—私たちは何 をすべきだろう	

－企画集会、小集会のご案内－

企画集会

「草地管理の効率化に向けてドローンを使っちゃいなよ！」

日時：2021年3月21日（日） 14：00－17：30

場所：ライブ発表

企画責任者：川村健介（国際農研），安田泰輔（山梨県富士山科学研究所）

ドローンを活用することで、草地管理を効率化する新たな展開は考えられないだろうか？近年、汎用性の高い小型ドローンの普及により、生産農家が必要な時期に草地の空撮画像を得ることが可能になりつつある。空から草地を眺めることで、地上では気づかなかった問題点に気づくことがあるが、この情報を草地管理に活用するためには、さらに意思決定（転牧のタイミング、雑草管理など）をサポートする情報として生産農家へフィードバックする仕組みが必要である。

本集会では、ドローンを活用することで、草地管理を効率化することが期待されるパラメータの推定（測っちゃいなよ！）、分類（分けちゃいなよ！）、検出（見つけちゃいなよ！）に関する現状の取り組みと課題を紹介しながら、多様な草地管理作業へのニーズに対応するドローンのセンサ要件や解析方法を整理し、今後の新たな展開に向けたアイデアの共有を図りたい。

1. 放牧地に侵入したチカラシバを見つけちゃいなよ！

国際農林水産業研究センター 川村健介

2. 半自然草地内に分布する樹種を分けちゃいなよ！

山梨県富士山科学研究所 安田泰輔

3. 良い乾草を作るために水分含量を測っちゃいなよ！

農研機構 農業情報研究センター 林 志炫

4. ウシの空間分布を考えるなら、草種の分布パターンも分けちゃいなよ！

宮崎大学 農学部 安在弘樹

5. 3D点群が簡単に測れちゃうPX-80自慢しちゃうよ！

農研機構 西日本農業研究センター 吉利怜奈

6. もっと手軽にドローンレーザ計測しちゃおうよ！

農研機構 北海道農業研究センター 小花和宏之

7. そのデータ、見える化しちゃいなよ！

農研機構 畜産研究部門 北川美弥

小集会 1（若手の会セミナー）

「トウモロコシ研究の最前線 育種・栽培から給与・乳生産まで」

日時：2021年3月22日（月） 10：00－12：30

場所：ライブ発表

企画者：吉原 佑（日本草地学会若手の会 三重大学）

若手の会では、広島大会の小集会において、メンバーを中心とした共通の研究課題（ヒツジ・ヤギの放牧管理）について紹介しました。今回も引き続き、若手研究者の共通の課題を紹介します。

トウモロコシは草地飼料作の中で最も重要な作物の一つに位置づけられ、我が国ではサイレージ利用は勿論のこと、近年では子実利用の国内生産の気運も高まっており、生産現場・研究の両面において注目度の高い存在です。

若手の会メンバーにトウモロコシの育種・栽培から給与・乳生産に至るまで幅広い分野の研究者が揃っていたため、今回の小集会では下記の通り「トウモロコシ研究の最前線 育種・栽培から給与・乳生産まで」を実施します。

【講演予定者】

1. 三ツ橋 昇平（農研機構畜産研究部門）

「関東地方における飼料用トウモロコシの品種育成と育種研究」

2. 赤松 佑紀（農研機構畜産研究部門）

「飼料用トウモロコシの子実生産について」

3. 矢島 昂・篠田 優香（農研機構北農研）

「北海道における自給濃厚飼料としてのトウモロコシ利用 ～調製・給与から乳・乳製品特性まで～」

小集会 2（公開企画委員会）

「草地学会の活性化に向けて—私たちは何をすべきだろう—」

日時：2021年3月22日（月） 14：00—16：30

場所：ライブ発表

企画者：企画委員長 山本嘉人（農研機構 畜産研究部門）

<開催趣旨>

日本草地学会企画委員会は、「学会の目的である『草地および飼料作物に関する学術の進歩と知識の普及をはかること』を達成するために、幹事会、編集委員会、大会運営委員会等とも連携しながら、学会活動活性化に必要な事業の企画や運営を行う。」ために、1989年に設置されました。主な活動として、大会における企画シンポジウム、企画集会および小集会の開催についての検討・準備、シンポジウムの学会誌特集記事編纂、さらに近年では大会プログラム編成や講演要旨集編集を担っております。その他に学会運営に係る業務を支援しております。

会員数が減少していく中で、魅力ある草地学会として私たちは何を目指していくべきでしょうか。そしてそれに向かって何をすべきでしょうか。これまで、企画委員会は大会時の昼休みにクローズな委員会として開催しておりましたが、今回は会員の皆様に委員会活動内容を知っていただくとともに、学会活性化に向けた活動方針について広くご意見等を伺うために、企画委員会を公開して開催することと致しました。

ぜひ皆様にもご参加いただき、忌憚ないご意見やアイデアをお聞かせいただきたいと存じます。もちろん傍聴のみも大歓迎です。

<検討内容> 資料については事前にダウンロード可能です。

1. 2020年度活動報告
2. 2021年度活動計画
3. 学会活性化に向けて（当面の企画委員会活動方針）
 - （1）大会盛会に向けた取り組み
 - （2）学会誌充実に向けた取り組み
 - （3）特集記事冊子化出版に向けた取り組み
 - （4）草地農業フォーラム開催に向けた取り組み
 - （5）その他
4. 企画委員会の役割と分担

学会大会における求職中のポスドク・学生の就職支援

日本草地学会 若手の会

若手の会では、『若手会員の研究職への就職サポート』を実施しています。本活動では、求職側（ポスドクや博士・修士学生等）と求人側（研究所・大学・企業等）の交流の場である学会大会において、就職側が求職中であることを、大会期間中のリボン装着や講演要旨、発表資料内への明示によってアピールすることで、若手会員の就職に役立ててもらえるものと期待しています。活動内容の詳細は下記をご覧ください。

本活動への応募は、大会エントリーページの下方（若手賞申し込みの下）、『「研究職求職中」を要旨に明示する』の項目からお申し込みいただけます。また同時に選択いただく「現在のポスト、学年」の情報をもとに、リボンやプログラムに記載するシンボルを割り当てます。

若手会員の就職サポート内容

1. 求職中であることを示すリボン（もしくはバッジ）を装着

- 学会期間中に求職中であることを示すリボンを装着することで、求人側の皆様に明示する。
- 求職の状況（PD や D3 などすぐに職が必要な人、D1、D2 やマスターなどで急ぎはしないが将来的に希望する人）などに応じて、リボンの色を使い分ける（表 1）。

2. プログラムに求職中であることを示すシンボルを追加

- プログラム中の発表課題番号の右（もしくは左）の分かりやすい箇所に、「求職中の学生・ポスドク」であることが分かるシンボルを示す（表 1）。

3. 発表資料（プレゼン・ポスター）に求職中ロゴを掲示

- プレゼン発表資料（PDF）やポスターに、求職中ロゴを入れる（表 1）。

表 1 求職中であることを明示する方法

明示方法	求職の状況			
	ポスドク	博士課程 3 年	博士課程 1-2 年	修士課程
1. リボン	赤	ピンク	黄	青
2. プログラム	★	☆	◎	●
3. 発表資料用 ロゴ	 CAREER EXPLORER	 CAREER EXPLORER	 CAREER EXPLORER	 CAREER EXPLORER

発表会プログラム

若手優秀発表賞発表

Y01 ドローン空撮画像のSfM解析による飼料用トウモロコシ倒伏・折損被害評価法 ○尾崎祐介1・黄川田智洋2・藤原 峻2・佐藤 尚2・戸苅哲郎3・今 啓人3・眞田康治2・高原美規1・秋山征夫2 (1長岡技科大・2農研機構北農研・3道総研畜試)
Y02 放牧地の植物種多様性がウシの採食種構成とルーメンおよび糞中細菌叢に与える影響 ○後藤佑理子1・柿原秀俊2・穴戸哲郎2・福田康弘2・瀧澤修平2・陶山佳久2・松尾歩2・中野美和3・小倉振一郎2 (1東北大農・2東北大院農・3農研西日本)
Y03 HojoLook-UAV空撮画像から植生指標relative Green Red Vegetation Index (rGRVI) を算出するGUIアプリケーション ○藤原 峻1・黄川田智洋1・眞田康治1・佐藤 尚1・上床修弘2・荒川 明2・高井智之2・清 多佳子3・内山和宏3・秋山征夫1 (1農研北海道・2農研九沖・3農研畜産)
Y04 Network of coexisting microbiome and fermentation mechanism of woody silage prepared with hay ○Zhumei Du1・Fuyu Yang1・Yimin Cai2 (1College of Grassland Science and Technology, China Agricultural University・2Japan International Research Center for Agricultural Sciences (JIRCAS))

1. 草地生態・システム分析・緑地環境

101	放牧草地の地表温度に及ぼす植物量の影響のモデル解析 ○板野志郎・大和田章生・遠田菜々実・田中繁史(新潟大農)
102	草地における分解中のリター量・フン量の画像解析による推定 ○小野ほのか・板野志郎・亀山亜美(新潟大農)
103	植生調査における被度(総説1)設計と被度の頻度分布の数理模型 ○塩見正衛1・陳 俊2・安田泰輔3(1茨城大・2西北A&F科技大・3山梨県富士山科学研)
104	植生調査における被度(総説2)べき乗則による解析 ○塩見正衛1・陳 俊2・安田泰輔3(1茨城大・2西北A&F科技大・3山梨県富士山科学研)
105	東北地方の草地における小型哺乳類の巣周辺環境条件の検討 ○瀬尾昂佑・柿原秀俊・穴戸哲郎・深澤 充・小倉振一郎(東北大院農)
106	LiDAR三次元点群データからの深層学習手法による草種判別 ○多田慎吾1・小花和宏之1・柳田知夏2・須藤賢司1(1農研北海道・2栃木畜酪研)
107	画像解析と数理モデルによる乳牛の自由姿勢条件下での体重計測技術 ○田中繁史・板野志郎・吉田智佳子・山田宜永(新潟大農)
108	49年前の草地改良がシバ草地の植生と土壌化学性に及ぼす影響 ○堤 道生1・平館俊太郎2・横川昌史3・井上雅仁4・高橋佳孝5(1農研西日本・2九州大院農・3大阪自然史博・4三瓶自然館・5全国草原再生ネットワーク)
109	外来牧草が侵略的になる条件解明を目的とした複数の禁牧処理 ○西脇亜也(宮大・農)
110	放牧草地の植生遷移に及ぼすイネ科草種と施肥量の影響 ○東山雅一(農研機構東北農業研究センター)
111	大規模画像に対するオブジェクト指向画像解析の実装と適用. 1. SLIC-Random forests アルゴリズムの実装 ○安田泰輔1・川村健介2・北川美弥3(1山梨県富士山科学研究所・2国際農研・3農研機構畜産研究部門)
112	大規模画像に対するオブジェクト指向画像解析の実装と適用. 2.放牧地への適用 ○安田泰輔1・川村健介2・北川美弥3(1山梨県富士山科学研究所・2国際農研・3農研機構畜産研究部門)

2. 造成・管理・栽培

201	飼料用トウモロコシの子実含水率の推定 ○赤松佑紀1・森田聡一郎2・佐々木 梢1・菅野 勉1(1農研畜産・2農水省)
202	飼料用トウモロコシ3作型における生育段階別の剪葉処理が生育および部位別乾物収量に及ぼす影響 ○石井康之1・Zhong Zixuan2・新美光弘1・飛佐 学1・井戸田幸子1(1宮崎大農・2宮崎大院農)
203	殺虫剤散布がトウモロコシ子実のフモニシン濃度に及ぼす影響 ○内野 宙1・上垣隆一2・金井源太1・篠遠善哉1・藤竿和彦1・新宮博行1・嶺野英子1・神園巴美1(1農研東北・2農研動衛研)

204 南九州地域における暖地型マメ科牧草を利用した混播栽培の検討 ○岡 晃也・飛佐 学・井戸田幸子(宮崎大農)
205 気象リスクに対応したスーダン型ソルガム「涼風」の栽培法 ○清沢敦志・北原茉依(長野畜試)
206 北海道十勝地域における栽植様式の違いが飼料用トウモロコシの収量および耐倒伏性に及ぼす影響 ○今 啓人 ¹ ・佐藤尚典 ² ・宿谷貴博 ³ ・前田右博 ⁴ ・藤原 峻 ⁵ ・黄川田智洋 ⁵ ・佐藤 尚 ⁵ ・戸苅哲郎 ¹ ・林 拓 ¹ ・出口健三郎 ⁶ (1道総研畜試・2ホクレン・3ビコンジャパン・4三菱農業販売株式会社・5北海道農業研究センター・6道総研酪農試天北支場)
207 北海道十勝地域におけるトウモロコシ極早生品種「ハヤミノルド」の密植・狭畦栽培が収量に及ぼす影響 ○今 啓人 ¹ ・戸苅哲郎 ¹ ・黄川田智洋 ² ・佐藤 尚 ² ・出口健三郎 ³ (1道総研畜試・2北海道農業研究センター・3道総研酪農試天北支場)
208 東北南部におけるマルチを用いたトウモロコシの二期作栽培の検証 ○三枝亮仁・小橋有里・関 誠(全酪連 酪農技術研究所)
209 UAVを用いたトウモロコシの生育モニタリング ○佐々木 梢 ¹ ・坂本利弘 ² ・赤松佑紀 ¹ ・菅野 勉 ¹ (1農研畜産・2農研環境変動)
210 ニューラルネットワークを用いたトウモロコシの収量予測 ○佐々木 梢・佐々木寛幸・赤松佑紀・菅野 勉(農研畜産)
211 湿害のある経年採草地へのフェストロリウム追播効果 ○佐藤 真(岩手畜研)
212 Growth characteristics of small-grain forages in southern Kyushu ○Zhong Zixuan ¹ ・Yasuyuki Ishii ² ・Li Bokun ³ ・Mitsuhiro Niimi ² ・Sachiko Idota ² (1宮大院農・2宮大農・3宮大院農工)
213 暖地での早春(3-4月)播種におけるソルガム類の乾物生産性 ○高井智之・荒川 明・上床修弘・桂 真昭(農研九沖)
214 暖地での梅雨明け播種におけるソルガム類の品種選定とスーダングラス「ベールスーダン」の不耕起播種技術 ○高井智之・荒川 明・上床修弘・桂 真昭(農研九沖)
215 播種時期が十勝地方におけるペレニアルライグラスの越冬性と一番草収量におよぼす影響 ○寺戸貴裕 ¹ ・秋本正博 ² (1家改セ十勝・2帯畜大)
216 トウモロコシ稈長を3Dモデルにより推定する上でのUAV撮影高度および時期の影響 ○二門 世 ¹ ・林 拓 ² (1北海道立総合研究機構酪農試験場天北支場・2現道総研畜産試験場)
217 異なる造成法における1年目の収量への寒地型牧草種の影響 ○東山雅一(農研機構東北農業研究センター)
218 草地診断効率化に向けた低コストGPS付き草量計と草地カルテシートの作成 ○平野 清・井出保行・北川美弥・進藤和政・中尾誠司・下田勝久(農研機構畜産研究部門)
219 北海道のペレニアルライグラスにおける冬枯れ多発年の出現頻度 ○藤井弘毅(道総研畜試)

220 北海道十勝地方の農家圃場におけるペレニアルライグラスの生育 ○藤井弘毅1・出口健三郎2・今 啓人1・戸苅哲郎1・林 拓1 (1道総研畜試・2道総研酪農天北)
221 九州南部の春播き栽培でのトウモロコシ子実生産における早生品種の子実乾物率の推移と極早生品種の品種比較 ○村木正則・室井智陽・伊東栄作 (農研九沖)
222 九州南部の晩播栽培や夏播き栽培での子実生産に適したトウモロコシの品種 ○村木正則・室井智陽・伊東栄作 (農研九沖)

3. 放牧・家畜管理・行動

301 トールフェスクKyushu 15草地の親子放牧への利用可能性 3. 放牧試験3年目の成績 ○堤 道生・大島一修 (農研西日本)
302 太陽光発電を活用した放牧地における牛舎用分娩監視装置の運用 ○平野 清・阪谷美樹・進藤和政・中尾誠司 (農研機構畜産研究部門)
303 暑熱条件下の乳牛への活性型酵母等を含む混合添加物給与がカウタイムバジェットにおよぼす影響 ○吉田智佳子1・伊藤有希菜1・佐藤駿介1・星野由芽1・田中繁史1・西川孝一1・國實寿典2・田川伸一2 (1新潟大農・2清水港飼料)
304 梨園への放牧による羊の栄養・健康と植生・土壌への影響 ○吉原 佑・宮川勇輝・坂井 勝 (三重大 生物資源)

4. 飼料調製加工・貯蔵・利用

401 発芽処理した粳米サイレージの給与が泌乳牛における乳量および乳成分に及ぼす影響 ○佐竹康明・寺井智子・井阪 章 (愛媛県農林水産研究所畜産研究センター)
402 栽植密度および予乾が飼料用ダイズと混播したローズグラスサイレージの発酵品質に及ぼす影響 ○新美光弘1・石井紋奈1・石垣元気1・Yogi Sidik Prasajo2・石井康之1 (1宮崎大農・2宮崎大院農)
403 貯蔵温度による発酵TMRの細菌叢および真菌叢の変動 ○西野直樹・Wali Ajmal (岡大院環境生命)
404 高水分ソルガムサイレージから発生する排汁の成分組成 ○二俣 翔1・高野 浩2・小林広人3・佐藤克昭2 (1静岡畜技研、現：静岡農林技研・2静岡畜技研・3静岡畜技研、現：静岡富士農林事務所)
405 酢酸型発酵を示したギニアグラスサイレージの細菌叢と真菌叢 ○Hou JianJian・西野直樹 (岡大院環境生命)
406 テフグラスサイレージの黒毛和種雌牛への給与が飼料採取量、胃液および血液性状に及ぼす影響 ○細田謙次1・金子 真1・加藤直樹1・服部育男2・中村好徳1 (1農研機構九州沖縄農業研究センター・2現：東海大学農学部)

407 逆止弁が付いた小袋で脱気せずに調製した牧草サイレージの発酵パターン

○森 欣順1・金子 真1・加藤直樹1・中村好徳1・服部育男2・細田謙次1 (1農研九沖・2東海大農)

5. 生理・形態・病理・昆虫

501 LEDライトトラップを用いた飼料用ダイズの主要害虫管理技術に関する基礎的研究

○石垣元気1・高橋京史1・Yogi Sidik Prasajo2・明石 良1 (1宮崎大農学部・2宮崎大院農学工学総合研究科)

6. 育種

601 チモシーのアレロパシーが圃場条件でのリードカナリーグラスへの競合力に及ぼす影響

○足利和紀 (道総研北見)

602 育成時のデータを用いた飼料用トウモロコシ自殖系統の組合せ能力の把握

○伊東栄作・村木正則・室井智陽 (農研九沖)

603 未出穂型ソルガムの準高冷地・高冷地における生育、収量

○春日重光1・古谷真輝斗1・今井裕理子1・小山内光輔2・関根 平2・野宮 桂2 (1信州大学農・2雪印種苗)

604 準高冷地において選抜・育成したライムギF1系統の特性評価

○河合佑香1・平柳賢治1・今井裕理子1・小山内光輔2・関根 平2・野宮 桂2・春日重光1 (1信州大学農・2雪印種苗)

605 スーダングラスの遺伝的多様性と農業特性

○清沢敦志1・川地太兵2・川東広幸2・米丸淳一2 (1長野畜試・2農研機構)

606 フェストロリウム「ノースフェスト」の1番草における飼料成分特性

○高橋健吾1・横山 寛1・眞田康治2・谷津英樹1・高橋 穰1 (1雪印種苗・2農研北海道)

607 アレル頻度にもとづく四倍体イタリアンライグラス品種・育種材料のゲノムプロファイリング

○田村健一1・清 多佳子1・久保田明人2・荒川 明3・藤森雅博2・米丸淳一4 (1農研畜産・2農研東北・3農研九沖・4農研作物)

608 新規多年生ライグラス系統の盛岡での生産力検定試験

○藤森雅博1・清 多佳子2・内山和宏2・久保田明人1 (1農研東北・2農研畜産)

7. 土壌・肥料

701 強酸性土壌に立地する採草地および放牧草地における土壌交換酸度と土壌中無機態窒素および

★びオーチャードグラスの被度との関係

○柿原秀俊・小倉振一郎 (東北大院農)

702 テフグラスへの炭酸カルシウム施用効果

○金子 真1・加藤直樹1・松岡 誠1・鮫島功丞2・服部育男2 (1農研機構 九州沖縄農業研究センター・2東海大学農学部)